四號、又「奉天圖書館叢刊」第五册）を世に問ひ、この漂流記に關しての隱れもない權威であつた。さうして「後記」によれば、著者のその後の研究の外に、故内藤博士がこれが研究を徹底すべく蒐集せられてゐた關係史料の貸與を受けて、これらを綜合して今度の本となつたとのことである。「韃靼漂流記」に關する研究の一應の大成と云つて宜いであらう。

この書の本論は、章を分つこと五、第一章は「漂流記の解題」であり、つゞく第二―五章は、それぞれ、「韃靼國漂流の顚末」、「燕京生活の一年」、「漂流人の送還」、「漂流人の日本生還」と題された、漂流記の内容の考證である。著者のことばを借りれば、「從來この漂流記の……記述に對する眞僞の判定は明確を缺き、果してどの程度まで信用すべきものか、全然見當がつかず、半信半疑の間に置かれてゐた。これに對して大體の解答を與へ一切の經過を分明ならしめた」ところのものであつて、漂流記の記事をば、支那・朝鮮側の――特に、豐富、かつ詳細なる朝鮮側の――諸史料とを巨細に對比檢討したもので、從來未發見の史料も多く擧げられ、また、先人と異なつた見解も含まれてゐる。

附錄として、一、石井本韃靼漂流記　二、朝鮮物語（卷三―四）三、韃靼語・支那語各傳本異同表がある。（一）のものは、漂流記の本文であつて、石井本（續帝國文庫「漂流奇談集」所收のもの）を底本として、これに異本の字句を補つたもの、（二）のものは、この漂流記の内容をとり入れた、右の題の如き、寛延年間出版の讀み本小說である。（三）のものは、漂流記の後半に、澤山の韃靼（滿洲）語と北京語とをのせてゐて、これがかなり正しい發音を傳へてゐることが、かねてから注意せられてゐたことなのであるが、これの一々に正しい字をあてた對照表である。著者の比定は大體正しいと思ふが、一二眼についたものを擧げたい。韃靼語の内、「明日」を「チマハ」といふのは、cimaha を寫したものであらうし、「駱駝」を「トモ」といふのは temen を寫したものであらう。また支那語の内、「朝」を「ソウシ」といふのは早起 tsao chi を寫したものと思はれる。

以上が本書の大概である。著者の第一著「韃靼漂流記に就ての研究」以來、今日まですでに十年に近い。この間他の諸學者の研究もあつたとは云へ、この漂流記に關する研究をこゝまで進めた著者の多年の勞苦に厚く敬意を表する次第である。（菊判、三二八頁、康德六年七月、南滿鐵道株式會社鐵道總局庶務課發行）

（藤枝晃）

バクトリア及び印度に於ける希臘人

W・W・ターン著

Tarn, W. W.,: Greeks in Bactria and India, Cambridge 1938

バクトリアは、アレキサンダー大帝の東征の結果として、ヘレニズム的文化に光被せらるゝやうになつたが、このバクトリアに於けるヘレニズムの形態は、既に其の地に培養せられ居たりし、

バビロニア、イラーン、及び、印度の諸文化の融合せる基礎の上に、新たに立ちたる希臘文化であつた。バクトリアの文化のヘレニズム的文化圏内に於ける意義の重要性も特殊性も、常に、斯かる觀點に於いて、其の妥當性を見るが、バクトリアが、政治史的に、バクトリア王國として、古代社會に出現したる理由は、セリウシッド王朝史の聯關に於いて理解せられるものであつて、著者は、バクトリア王國のユーテドミド（Euthydemids）王朝史を、從來行はれてゐるが如く、ヘレニスチックの全體的歴史より除外することの不當を主張してゐると同時に、印度に於ける希臘人の活動が、常に、印度史の一部としてのみ取扱はれてゐるのは、無意味であると斷じ、全ヘレニズムの歴史の上より觀る可きことを主張してゐる。

本書は、又、この種の研究には甚だ貴重なる斷片的資料を用ひて、深き批判的考察の下に、全體的概念の正鵠を得んことを期して居るが、特に、本論である第二編の東方イラーン及び北部印度に於ける希臘人の支配を論ずる以前に、第一編に、セリウシッド王朝に於ける社會的諸現象を、本論の背景として詳述し、これに據つて、東方に活動せる希臘人及び希臘文化の性格を限定せんと試みてゐる點は、著者の用意の周到なるを思はしめる。又、バクトリア王國の歴史の發展過程は、全く東方に於けるマケドニアの歴史の再現であると見、唯、ユーテドムスは、アレキサンダー大帝程の成功を贏得なかつたとしても、彼の統治は地主との和解と協力とに成功した。此の事實は、實際は、アレキサンダー大帝自身が、晩年、波斯の統治に苦しみ、土民との協調によりて、具體的には希臘イラーン的國家の創建によりて、唯一の解決策としたのと軌を一にするわけである。

附錄として、多數の東洋史的問題を取扱ひ、貨幣の標本、其の他、地圖三葉をも添加して、研究者に便益を與へてゐる。〔足利惇氏〕

ファシズムの哲學

Palmieri, Mario : The Philosophy of Fascism.

パルミエリ著

Contents. Part 1. Fascism as a way of Life. Part 2. Fascism as a Political and Economic Organization, Part 3. Fascism as a Historical Process.

近代的反動思想としてのファシズムは今やヨーロッパの全分野に出現し、反動の歴史に新な段階をもたらした。

この反動運動は一連の全體主義國家群を形成し、英佛を中心とする傳統的な民主主義國家との間に尖鋭な對立抗爭を卷き起してゐる。

英佛に劣らず高度に發展した資本主義をもち、政治機構に於ても民主政治を樹立してゐた伊、獨が之等一切の近世的要素を排除して早くもファシスト的攻勢に轉化したその歴史的要因については Alexander Schifrin に依つて一應解決せられてゐる。